

## 【屋台文化保存連絡会 公開質問状への回答】

■■■2003年に「屋台会館早期建設提案書」を提出したことを知っているか。

■知っている。

■■■11万人の重みをどう受け止める。

■当時の人口48万人だった姫路市で、市長を解職請求できる署名数（約14万7千人）に届こうかという数で、非常に重たい数字である。その実現は、市民の長年の悲願だと受け止めている。

※有権者の3分の1以上（有権者総数が40万人を超えるときは、40万を超える数の6分の1と40万の3分の1を合計した数以上）

■■■提案書提出から今年で20年。なぜ実現しない？

■整備するからには、入場料収入で相応の維持管理費を賄っていかななくてはならない。集客の面からも駅周辺もしくは姫路城周辺での立地がふさわしい。城周辺の場合、本町68番地で開発行為を行うには文化庁の許認可が必須である。課題を整理するためには、文化庁が納得する特別史跡姫路城跡保存活用計画の改訂が前提であり、その膨大な課題解決策が十分に練られていないことが実現できない理由だと思っている。そのため、駅周辺や既存施設の利活用、改修計画など幅広く実現に向けた作業に取り組んでいる。

■■■会館を建てる考えはあるか？

■屋台文化保存というコンセプトの単独施設では採算性・持続可能性が脆弱で、持続可能性の観点から実現の可能性が低いと感じる。宗教催事への公金支出の行政上の問題点など、市議会への理解も含めて得にくい現状がある。このため、従来の「姫路城ミュージアム」構想を発展させ、①祭り・屋台・獅子舞など民俗文化、②姫路城や城下町の歴史・構造・遺構、③黒田官兵衛や千姫、河合寸翁など歴史上の人物の理解促進、④明珍火箸・姫革細工・姫路仏壇など伝統的な地場産業—について解説・展示・体験・学習・顕彰できる機能を併せ持つ「(仮称) はりま伝統文化ミュージアム」として実現の可能性を探りたい。

■■■場所はどこが良いか？

■平成27年度策定の姫路城跡中曲輪施設整備方針において、従来の「姫路城ミュージアム」の立地場所としては大手門駐車場の東エリアが最適と評価されている。しかし、姫路城周辺では今後、姫路城東休憩施設の整備（または美術館の増築）、東消防署や動物園の移転、日本城郭研究センターや中央支所、市民会館、保健所の大規模改修・建替などが見込まれていることから、特別史跡姫路城跡保存活用計画と整合性を図りながら姫路城周辺での適地を探索したい。一方では、駅西エリアの活性化をなど、新たな観光拠点化計画や既存の姫路市